



## 障害をもつ幼児の保育(15)

—この子と出会ったとき—

津守

真 (M)

津守

房江 (F)

## 見る人と その二

子どもが見ているものを一緒に見てたのしむこと

M 子どもが見ているものを一緒に見てたのしんでみると、子どもが何をしようとしているのかが見えてきます。このことは障害をもつていてもいなくても、どの子にも共通です。僕は遊び始めにはできるだけ口を

はさまないで、まず子どもが見ているものを一緒に見ます。少し時間をかけて見ていると子どもの心が分かってくるんです。

F 私は自分が面白く遊んでいることが多いかな。そうすると子どもの方から「なにしているの?」というようにのぞきこんできて。でもじきにそれを取って、

「こうしたら？」とか、「こうやったらもつとよくなるよ」と教えてくれる子もいます。私の遊ぶ姿が刺激になって、それとはあまり関係なく自分で遊び始める子もいます。

M 両方の場合がありますね。子どもが何を見ているかは結局は分からないんだけど、楽しんで一緒に見ていると、だんだん分かってくるんです。

### 水の流れを見る子ども

M 先日、一人の子どもが、庭で水の流れるのをじっと見ていました。私もそこにしゃがんでかなりの時間一緒に見ていました。小さな木の葉が水と一緒に流れてゆきました。その木の葉が何かにひっかかって水がうまく流れなくなりました。しばらくすると、また木の葉はくるくると回りながら流れ始めました。見ていても面白いんです。

F 私も同じような経験があります。公園の橋の上か

ら、小さな川の流れをいつまでも見ている子がいて。その子の母親が言うには、この子は外出が好きで、いろんなところに行くが、水の流れを見るのが好きで、流れ方がわるいと怒ると言うんです。

M だれでも、水が流れるイメージを好むのは自然なことではないかしら。車に乗っていても、流れが滞ると怒る子は多いでしょう。少し飛躍するけれど、一日の生活の流れも、つかからないでうまく流れていればいいのだけれど、不自然に妨げられると子どもは苛立ちますね。

F 本当にそうね。水の流れを見ている子どもも、水そのものを見ているというより、流れのイメージで見ていると言ってもいいのではないかしら。見ながら体が揺れたりしていますよね。

### 石を見ていた子ども

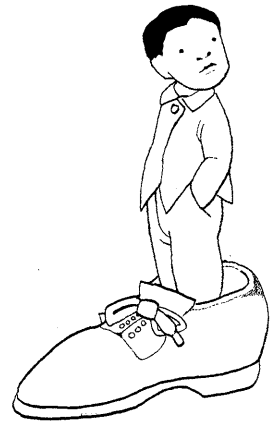
M これもつい先日のことだけれど、子どもの視線が

いつているところに何があるのかと、私もそつちを見ていると、その子は落ちていたきれいな石を見ているんです。私がそれを拾って子どもに差し出すと、はじめて出会ったその子がつこり笑って私を見ました。母親が、この子は石が好きなんですと言いました。その石は滑らかで特別にきれいな石でした。

F 石が好きな子は多いですね。大人から見たら、泥がついていてきれいとは言えない石でも。

M ちようど庭には同じように滑らかな石がいくつも落ちていたので、私はそれを拾いながら、この石の何が子どもの心をそんなにひきつけるのだろうかと考えました。石は固くて、投げて踏んでも形を変えませんが、そのように、子どもは心の奥で、いつも変わることはない固いものを求めているのだろうか。一緒に石を探しながらこんなことを考えていると、子どもと一緒に石を探すのが一層楽しくなります。

F 私がこのごろ始終相手をしている孫も、自動車の



形をした石を拾います。形としては車のように私には見えないので、黙って見ていると、土の上を「ブーブー」って、手で押して行きます。そうすると、なんでもない石が、「ブーブー」のように見えてきて、私もおもちゃの自動車にして本当に面白く、わくわくした遊びになりました。孫に遊んでもらっているみたいですが、……（笑い）。

### 肯定的な目が子どもを生かす

M 大人が子どものすることを面白いと思って見ていると、子どもは一層たのしくなって次々と遊びます

ね。僕は始終こういうことを経験しています。子どもは、自分のすることを意味あるものと思つて大人が見ていてくれると、自分で工夫することも多くなるし、子ども自身の発見も多くなるのではないだろうか。

F うちの一歳八カ月の孫は、食事のときに顎の下に母親がはさんであげるハンカチを、遊ぶときに顎の下にはさんで、それが落ちないように歩いているんです。そのしぐさが可愛くて、大人が笑つた。最近、顎の下にミニカーをはさんで見せに來たので、両親が大笑いしたと話していました。子どもはそれが嬉しくて何度も繰り返し返しては笑いました。子どもには大人が喜んでくれることを見せようする気持ちがあるのね。見られることと見ることは相互的で、同時的なことなんですね。

M 子どもがすることを大人が可愛いと思つて見なかったら、子どもの成長はつまずくでしょうね。

どの子どもでもするような小さなことを、障碍の子だか

らこんな変なことをするというように見たら、相互性そのものが体験できないのではないのでしょうか。

### 否定的な目は子どもを萎縮させる

M ひとりの子どもが草の葉をちぎりました。草を折つたらお花がかわいそうでしょうと大人が言いました。その子は手を止めて、その大人を見上げました。その子は落ちている小枝を拾つて指先でぐるぐる回しました。その人は、目が回りそうで気持ちが悪くなると言いました。それは何げなく言つたのだからけれど、母親はこんな変なことをやるのは普通ではないだろうと心配しました。障碍をもつと診断された子どもの相談のひとつです。

F 乳幼児期には、どの子ども多少の成長の歪みをもっていますよね。それに専門家と言われる人から診断名をつけられると、その歪みの部分にばかり目がいつてしまう。でも、毎日子どもと生活をともにする親や保

育者は、その子のもつ、他の人では感じとれないような繊細な感覚に気が付きます。それを大事にしていきたいと思います。

M 前回、自閉症の子は目が合わないといわれているけれど、子ども自身が目を合わせたくないのだと話しました。繊細な感覚をもつ子どもは、大人の否定的なまなざしを敏感に感じ取って萎縮してしまふ。「自分らしく生きていいのだよ」と励ましていると、大人に信頼を寄せるようになります。

否定的に見られると、

子どもは大人の困ることをしはじめる

M 私の養護学校の子どもで、小さい子の髪を引っ張る子どもがいました。注意して見ると、その子は私が小さい子と遊んでいるのを見ると素早く走って来て髪を引っ張るのです。こういう場合、ただ乱暴な子どもと考えて、叱るだけでは済まないでしょう。その子は

普通に歩くだけで階

下の住人からうるさ

いと文句の電話がか

かってきて、両親は

極度に神経質にな

り、子どもはただ歩

くだけで、静かにと

注意されていました。見られることが喜びではなく、

マイナスの感情を呼び起こすことになったのです。私

はその子に優しい目を向けようと思い、一生懸命にな

りました。実際にはそれはとても大変だったんだけど。

ど。

F あなたはそのときどう考えてその子にかかわったのですか。

M 僕はそのときは、何はおいてもその子のことを優先させて考えなければと思ったんです。ちょっと目を離すとその子は小さい子の髪を引っ張って、あちこち



で泣き声が聞こえて。保育どころではないという具合だったから。職員たちの協力を求めて、私がその子に専念させてもらいました。それができたのは幸いでした。

F そういうことって、よくあることね。私が見ている子どもなんだけれど、その子は家でときどき大声を出したり、叫ぶんです。引越したばかりで、隣の家から文句の電話がかかりました。その子が外に出ると、変な子だと鋭い目で見られました。その子は隣家の前を通るとき、顔を伏せて人を見なくなりました。この場合は何か月もかかってしまっただけで。地域の児童館にも随分お世話になって。でも、近所の年配の方から「少しくらい文句をいわれたからって子どもを叱っちゃだめよ」と励ましてもらって、両親はほっとしたと言っていました。

### みんなの見る目が優しくなるように

M 子どもが何を見ているかということを通して、つい話は大人の目になってしまいました。

他人のしていることは結局は分からないから、自分が何を見ているかと言うことになるのは自然なことですね。しかも、自分の目は自分では見られない。

F だから、子どもが大人に示す行動によって、大人自身の目を確かめるのですね。

M 自分の目に含まれる瞬間の心の思いが相手には伝わってしまうから、大人は子どもを見るときの自分の目が優しい目になっていくかどうかにときどき意識を向けることが必要になるんですね。

F ほんとにね。